



建交労鉄道

# 岩手地本

2021年11月16日  
NO 147号  
発行責任者  
須藤清成

### 総選挙をどうみる

先の衆議院選は、市民連合と4野党が共通政策を掲げ、多くの小選挙区で与党と最後まで激しく競い合い、成果を勝ち取ることができましたが、自民党が安定多数を維持し、維新も含め改憲勢力が3分の2を占める残念な結果となりましたが、共闘の効果が示された総選挙ではなかったのでしょうか。

### 自民は共闘の徹底を恐れている

(東工大学教授 中山岳志さん)

野党で候補者を一本化し62選挙区で与党候補に勝利し、31の選挙区で僅差まで追い込みました。共産党などが支持したからこそ、当選した小選挙区の野党共闘の候補はたくさんいます。

小選挙区でもとで野党共闘があった成果です。いま、自公政権がメディアを総動員し、野党共闘批判を繰り返しているのも、彼らがいかに市民と野党の共闘の前進を恐れているかを示しています。

### 惜敗率

各小選挙区の「惜敗率」。野党候補の票を100として、与党候補から90%以上に迫られた野党候補は25人がぎりぎりで勝つことが出来ました。

逆に惜敗率90%以上で競り負けたのは、33人います。80%以上だと54人です。八割以上の惜敗率というのは、次の選挙で当選の可能性が高いとされています。これを見ても野党共闘は間違いなく効果がありました。

### 一本化で市民参加進む

(法政大学 上西充子)

メディアは勝敗だけをとらえて「野党共闘はダメだった」と報じていますが、政治を動かしているのは一握りの政治家ではなく、市民です。みるべきは、市民が選挙にどう関わったかです。市民の小さな動きを变化の過程として注目すべきで、政治を変える動きに加わる人が次々生まれ出てくる必要があります。

市民と野党の共闘が呼び起こした政治に対する関心は、選挙が終わればすぐに雲散霧消するものではありません。次の選挙に向けて、感心が次の感心と呼ばれる「連鎖」となって政治を変えていくはずだと思います。

いまここで市民と野党が共闘をあきらめて、もとのバラバラに戻ってしまったていいのでしょうか。市民と野党が今回まいた種は、次の機会に必ず芽吹きま

### 共闘の効果が示された総選挙

日本の政治を変えるためには、市民と野党の共闘をさらに発展させ、その豊かな政策を多くの国民に伝え、共闘を前進させとりくみが、歴史的意義のある選挙で、未来があることを示しています。

### お知らせ

いのちとくらし、平和を守る政治を！

11月17日 盛岡昼デモ

日時 2021年11月17日(水)  
12時20分集合 12時25分出発

集合場所 盛岡市県庁向かい・内丸緑地集合

- マスク着用 2時間隔で 普通音量でしっかりアピール
- 趣旨賛同する方は、どなたでもご参加できます。

もりおか歴史散歩 (北山・寺町かいわい)

11月21日(日) 9時~12時

主催 いわてローカルユニオン (浅沼ビル前9時集合)

フードバンクへの食材品の提供

12月4日までに盛岡労連事務所に  
今回は食品だけでなく カンパもお願いします。

ローカルユニオン 第22回定期大会

2022年1月末に開催予定。

コロナが収まっていたら対面での会議と、コロナ対策をして会食をしたい。

## 人間が健康に生きて行く為に157

**コロナ危機から命を守る(医学博士岡田晴恵)**  
**第6波への備えをしっかりとしつつ気持ちは明るく前向きに**  
**1にも2にも換気が大事 宿泊・自宅療養の備えも**  
**一今必要な備えは。**

新型コロナウイルスの感染者数は第1波から5波まで、上がったり下がったりを繰り返しています。しかもその波は色々違う変異株です。今のデルタ株は従来株より感染力が強く、米疾病対策センター(CDC)は感染者一人が8~9人にエアゾル感染させるといいます。

咳やくしゃみで出る飛沫が乾燥して小さな粒子になり、空気中に浮遊するのがエアゾル。冬は空気が乾燥してエアゾルになりやすいのです。しかも冬に向けて、デルタ株よりもっと感染力の進んだ株が出てくる可能性もあります。

手洗いもマスクも必要ですが、ウイルスはマスクの隙間を出入りし、吸い込むとすぐに細胞の中に入っています。だから吸い込まないように換気が大事です。

**一早期にワクチン接種した人のワクチン効果は、今冬も有効でしょうか。**

MRNAワクチンは細胞性免疫と液性免疫の二つが誘導できます。私たちが見るのは、液体免疫の抗体価です。これは時間が経てば落ちますが、ゼロになるわけではない。重症化阻止はできるのではないかと、実際は冬にならないとわからない。

精神的にきつい程人とのつながりが大事  
**一コロナ禍の長期化は、気持ちも疲弊させます。**

「気持ちを明るくすると、免疫力アップになる」感染予防しながらもコロナにとらわれずに、気持ちは明るく保ってきたい。

食物はすごく大事。野菜や納豆、きのこ類、たんぱく質など免疫アップの食材をとり、バランスよくしっかり食べる。運動も睡眠も大切です。

感染症は「お互い様」です。感染させたい人も感染したい人もいない。病気を『治す』と言いますが、病気を『治す』とは完治です。重症化させないように宥める、でもまた病む。その繰り返しを乗り切っていく程度に感染を抑えるのがワクチンや薬、医療です。医療は「癒し」なのです。

苦しんで亡くなった人を忘れてはいけない  
**一近年、感染症パンデミックの発生頻度が高まっていると指摘があります。**

対処方法は積極的な検査です。今回、国はPCR検査を増やさず、「37.5度以上の発熱が4日間続いたら医療機関に受診を」としたため軽症や無症状の人が感染を広げた。私は、当初から早期の検査と治療が大事だと言ってきた。医療の確保と、国が普段から新しいウイルスが出ないか『サーベイランス(監視)』することが大事です。自宅でハース(陽性者がスマホやパソコンで健康状態を入力し、医療と共有するシステム)に「苦しい、苦しい、苦しい」と入力しながら亡くなった人がいることを私たちは忘れてはいけない。

## 原発ゼロNO 127

### 福島県では初の震災遺構

2021年10月福島県では初の震災遺構、津波被災と原発事故、津波被災と原発事故、地域の記憶を後世に伝えるため、福島・浪江の請戸小が震災遺構として整備公開。東日本大震災、東京電力福島第1原発事故の被害と教訓を伝える震災遺構となった福島県浪江町立請戸小は24日開館し、一般公開が始まった。

2011年3月11日、沿岸から約300メートル内陸にある請戸小は高さ約15メートルの津波に襲われ、同小は津波で2階床付近まで浸水した。児童93人は教員の判断で高台に避難し無事だったが、請戸地区の154人が犠牲となった。同地区は、福島第1原発の北5キロに位置し、東京電力福島第一原発事故で2017年3月まで立ち入りが制限された。6年にわたり避難指示を受け、再開しないまま今年4月に閉校した。町は国の交付金などで校舎を整備。1階部

分は、曲がった窓枠や剥がれ落ちた天井、津波到達時刻から止まったままの時計など、壁が崩れた教室や、配線がむき出しとなり垂れ下がった蛍光灯など、可能な限り当時の被災の爪痕がそのまま残されている。2階の教室には、地区への立ち入りが一時的に許可された際に卒業生らが「請戸は永遠なり」「がんばって請戸！」。捜索に入った陸上自衛隊員や一時帰

宅した住民らのメッセージなど書き込んだ黒板が設置された。震災前の町並みを復元した模型を展示。請戸地区で生活していた住民らが被災体験を語る映像も流す。

このほか、小学校の歴史を紹介する管理棟や、当時校舎にいた児童ら95人の避難の経過が描かれた絵本「請戸小学校物語」を使って被災状況を説明するパネルも整備した。

となったため、93人の子どもたちは、散り散りになった。それから10年、幼い頃を過ごしたかつての母校が残さるることになった今、子どもたちは、故郷を、そして、故郷から離れて暮らした日々をどう振り返るのか。当時の1年生、5年生、6年生の3組の同級生たちが胸に秘めてきた思いを語り合う。

開館記念式典で、当時、同校6年だった横山和佳奈さん(23)は「どんな姿でも残ってくれてうれしい」と訴えた。町教育委員会の玉川宏美副主査は「津波がどれだけの脅威か、実際に目で見て肌で感じてもらいたい。多くの人に思い出してもらい、後世にも伝えられる施設になってほしい、卒業生にとってシンボリックな存在になれば」と話した。

ネットより

